

第5章 研究の成果と今後の課題

本研究は、平成27年度から2年間にわたり「児童生徒の豊かな人間関係づくりに関する研究－SNSの利用による友人関係への影響に着目して－」を研究主題として調査研究を進めてきた。ここでは、その成果と課題を述べる。

1 研究の成果

- 教師に対しての調査から、教師が学校生活から捉えている児童生徒の姿（見方・捉え方）と、人間関係づくりの取組の現状と課題を把握できた。
- 県内の公立小・中・高等学校の児童生徒への調査から、SNSの利用による友人関係への影響を学校適応感、友人関係との関連性から多面的に分析・考察し、傾向と特徴を示すことができた。
- 児童生徒のSNSの利用について五つの観点から可視化して把握できる「SNSチェックシート」を開発した。また、「SNSチェックシート」は、「学校楽しいーと」と組み合わせることで実施することにより、児童生徒のより適切なアセスメント（見立て）や学校不適応の早期発見や早期対応に生かすことができる有効性を示すことができた。
- SNS利用の影響を踏まえた「豊かな人間関係づくり」の年間計画は、検証改善サイクル（R-PDCAサイクル）を基準に作成することで、組織的・計画的に指導・支援する体制の充実を図ることができ、その具体的な学級活動・個別対応の取組例を提示することができた。

2 今後の課題

- 小・中・高等学校、特別支援学校の各校種の「SNSチェックシート」のデータをより多く収集・蓄積し、本県の特徴や傾向について更に明らかにすることが必要である。
- 児童生徒の健全な成長と人格のよりよい発達を促す開発的・予防的な生徒指導の視点から、学校適応とSNS利用の影響の関連性について、今後、更なる研究が必要である。

おわりに

現在、SNSを利用する児童生徒は年々増加傾向にあり、「ネットいじめ」などの友人関係におけるネット上のトラブルは、生徒指導上の課題の一つとして問題視されている。このような現状を踏まえて当課は、教師と児童生徒を対象にした実態調査を実施し、学校における「関係づくり」の取組の状況や、SNSを「利用する児童生徒」、「利用しない児童生徒」の傾向や特徴を明らかにし、「豊かな人間関係づくり」のために求められる組織的・計画的な指導・支援の在り方について研究を進めてきた。

SNSの影響を踏まえた「豊かな人間関係」の研究成果が、開発的・予防的・問題解決的生徒指導の基礎資料となり、児童生徒の指導や支援の発展に寄与できれば幸いである。

最後に、本研究を進めるに当たって、実態調査に御協力いただいた多くの学校、実践事例を提供していただいた研究協力員の先生方、また、研究全般について御助言をいただいた鹿児島大学教育学部心理学科教授の大坪治彦先生に改めて心から感謝申し上げたい。

【引用・参考文献】

- 文部科学省 『生徒指導提要』 平成22年
- 国立教育政策研究所 『いじめのない学校づくり2 サイクルで進める生徒指導：点検と見直し』 Leaves. 2 平成26年
- 栃木県教育委員会 『望ましい人間関係を構築する能力を育成するための指導・援助の在り方』 平成18年